

俺があいつで、あいつが俺で

ゆっくりと回復してゆく意識の中で、その瞬間を思い出していた。

いつものようにギチギチに拘束して動けないあいつの上にのし掛かって事に及んでい
る最中、突然、今までにない快感が身体を突き抜けて意識がぶっ飛んだ。

強烈な余韻がまだ残っている。

どのくらい気を失っていたのだろう、たぶんそんなに長い時間ではないだろう。

しかし、意識がしだいにはつきりしていくにつれて身体に違和感を覚え始めた。

確かにあの時、俺はあいつの上に乗っていたはずだが、今は間違はなく仰向けになっ
て、背中がベッドに強く押し当てられている。グツシヨリ汗で濡れたシャツが気持ち
悪いうえに、俺の上に誰かが乗っているような重量感が鬱陶しい。

振り払おうとしても身体が全く動かない。

それどころか俺の身体は二つに折れ曲がり、両足首は首の後ろで一つに括られ、両
肩が両足の間から引き出され、両手は両足を外から抱えるように後ろに回され一つ
に括られている。

その形には覚えがあった。さっきまであいつに強要し、その無防備な股間を弄び、そ
のまま上乗りになって事に至った姿勢だ。

あいつの驚異的な柔軟性はそんな姿勢をなんなく許容し、長時間放置されても何
ともなく、時にはそのまま眠ってさえしまう。

意識を失っている間に誰かにそんな恰好に括られたのだろうか。

しかし、身体の堅い俺にそんな姿勢は絶対無理だ。

そして、もしあいつが先に目覚めたとしても、身動きできないあいつにそんな事は出
来ないし、この家には俺とあいつしかいない、はずだ。

しかし間違はなく今俺はその形に括られている。

しかもそんな姿勢を強要されていながら何の痛みも感じてさえない。

なぜなのだろう、さっぱり訳が分からない。